

自治体 新庁舎ネットワーク整備

福島県 須賀川市 様



福島県 須賀川市

福島県 須賀川市

豊かな自然環境に恵まれた須賀川市は、東北縦貫自動車道、国道4号、東北本線、東北新幹線、水郡線が通り、首都圏や仙台圏へのアクセスが容易で、高速交通体系に恵まれたまちである。さらには県内唯一の空の玄関口「福島空港」を有し、これらの高速交通網の整備により、人・物・情報などあらゆる分野において交流が活発化して新たな文化を生み出すなど、「臨空都市」として大きく成長してきた。

<http://www.city.sukagawa.fukushima.jp/>

導入製品

- APRESIA®
- Account@Adapter+
- Aruba®
- LOG@Adapter
- 日立金属社製 漏えい同軸ケーブル (LCX)

複数要素認証でセキュアな無線LAN環境を ワンストップで構築し、かつ職員業務効率化を図る

Point

- 利便性とセキュリティを両立したICT環境の提供
- Account@Adapter+による管理者の負担軽減
- 美観と効率性を両立する、漏えい同軸ケーブル (LCX) を使用した無線LANネットワーク

新庁舎におけるネットワークの構築計画

須賀川市は、西に那須連峰、東に阿武隈高地の山並みを望み、阿武隈川と釈迦堂川がゆったりと流れ、明瞭な四季を織りなす、自然環境に恵まれたまちである。また、東北縦貫自動車道、国道4号、JR東北本線・水郡線、東北新幹線などにより、首都圏や仙台などの都市圏とのアクセスに優れている。さらに、県内唯一の空の玄関口「福島空港」を有し、福島県の高速交通体系の拠点となっている。

平成17年4月には近隣2町村と合併し、新たな一歩を踏み出した。また多様化する市民ニーズに対応できるよう、それぞれの地域が持つ個性や歴史、伝統文化、自然環境などの貴重な資源を生かした「市民との協働」によるまちづくりを進めている。

平成23年3月11日の東日本大震災では、須賀川市は甚大な被害を受けたが、現在は、市民生活の更なる安定と、「復興期」から「発展期」に向けた新たな段階に踏み出している。

その復興事業のひとつとして平成29年3月に竣

工した新庁舎は、地上6階、地下1階、建築面積約3,869㎡、延べ面積17,020㎡の大規模な庁舎であり「一復興のシンボルとしての市庁舎『みんなの家』」とし、「防災拠点となる安全・安心な庁舎」「市民に開かれた利用しやすい庁舎」「機能性・柔軟性を重視した庁舎」「環境にやさしい庁舎」「須賀川を象徴する庁舎」を5つの基本理念とし、須賀川市の歴史や景観に調和するように設計された。

庁舎内には、市民が効率的に来庁目的を果たせる「ウルトラ窓口」と、明るく開放的な吹き抜け空間を利用した「みんなのスクエア」、開かれたイメージを提供する「顔が見える対面型議場」が整備され、機能面でも市民が利用しやすいように配慮されている。

その新庁舎整備計画にあたり目標のひとつとしたのが、基幹系は有線、情報系は無線で構築することを理念とした先進的なネットワークの環境づくりだった。「ICT整備のコンセプトは、快適な執務環境づくりとセキュリティの両立でした」と推進役を担った須賀川市 行政管理部 行政管理課 主任主査兼情報推進係長 塩田 喜一氏は語る。

その両立の実現ためにエイチ・シー・ネットワークスが提案したのは、APRESIA Systems社製ネットワークスイッチAPRESIA、日本ヒューレット・パッカート社 (以下、HPE社) 製無線アクセスポイント Aruba 200シリーズ (以下、無線AP)、当社製認証アプライアンスAccount@Adapter+、ログ管理アプライアンスLOG@Adapterであった。

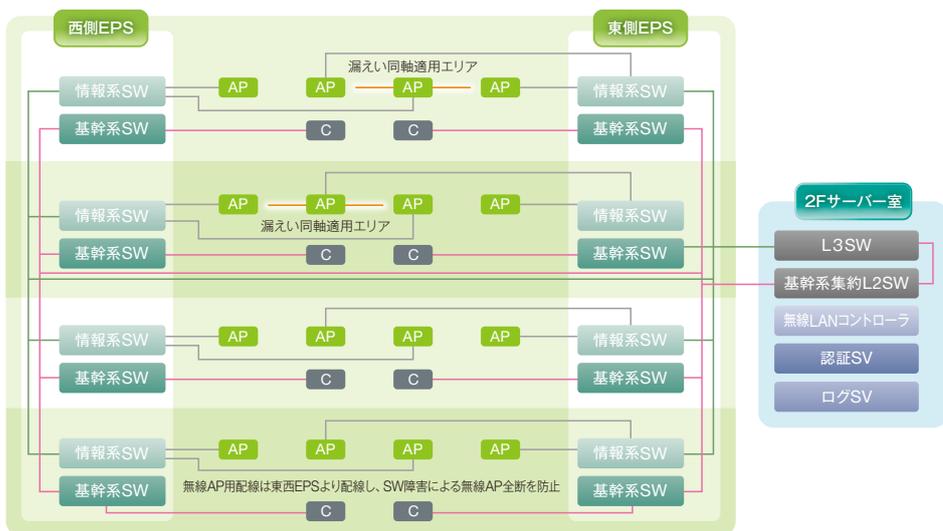
須賀川市では、業務システムに無線LANを使用するのは初めてであった。このため、現場での運用に問題は出ないかといった心配が行政管理課の職員にはあった。また、運用開始は引越し直後となり、スムーズな業務開始への懸念があった。

そこでエイチ・シー・ネットワークスは、引越し前の仮稼働として、仮設庁舎に無線APを設置し、



福島県 須賀川市
行政管理部 行政管理課
主任主査兼情報推進係長
塩田 喜一氏

物理構成



対象PCに無線LANの認証を適用させ、新庁舎と同じ環境のもとで、無線LANを運用する実証試験を行った。「新庁舎開庁後、初めて使う無線LANで業務に支障が出ないか不安がありました。しかし、事前に無線LANを仮稼働できたことで準備もでき、職員の不安も払拭できました。事前導入のおかげで、新庁舎引越後、初日から安心して業務を行うことができました。今は無線LANでケーブルに縛られることもなく、快適にPCを使っています」と塩田氏は語る。

ネットワーク認証にADと関係し、人事異動時の負荷を軽減

「認証の方式については、時間をかけてセキュリティ面、利便性面から検討を行いました。人事異動の際に認証方式によっては非常に手間がかかる。Account@Adapter+は、さまざまな認証方式に対応している上、既存のADとも関係できました。また複雑な設定を行うことなく、IEEE802.1X環境を適用することができました」と塩田氏は、システム管理者の立場からその利便性の高さを語る。また、今回の導入では1台が故障した場合でも、認証が滞ることはないように、可用性担保のため2台で構成している。さらに、情報系の無線LANではさまざまな検討の結果セキュリティに配慮し安全対策として、IEEE802.1X(ユーザー認証、マシン認証)にて市の管理下にあるパソコンのみ接続可能とした。また、既存のAD上のユーザー、コンピュータの認証データ

を用いているため、認証データを一元管理することに成功している。認証情報のログを一元管理できる当社製ログ管理アプライアンスLOG@Adapterにより「誰がどこでつながったか」を確認できることで、ログの確認に割かれていた時間を削減することができた。

塩田氏は「これから庁内でさまざまなシステムの導入を検討しています。利用するセグメントにより、それぞれに適した認証方式が選択できることは、セキュリティ上とても重要です。また、業務に大きな影響をおよぼす故障によるサービス停止も回避しなければなりません。そのために、2台構成にすることで、信頼性と可用性を確保しています」とセキュリティと信頼性のあるシステムの重要性を語った。

入念な電波調査を行い、竣工と同時に無線ネットワークも快適に利用

「平成26年から開始されたベンダーの選定では、新築工事のため調整能力の高さが要求されました。設計・建築・設備業者との接点も多い電線メーカー系のインテグレーターである実績をもつエイチ・シー・ネットワークスに、各社との調整力を期待しました」と、当時のベンダー選定経緯を塩田氏は思い返す。

庁舎建築中に開始されたネットワーク構築においては、建築打ち合わせの段階から参画し、無線APやコンセントの設置場所の確認、設備スペースの確保など、建築側との調整に注意が払われた。露出設置として計画した無

線APについては、新庁舎の美観を損ねないことが要求され、コンパクトなHPE社製無線APを使用。形状や色においても圧迫感のない、意匠的にも庁舎の壁面や天井面に調和した設置が可能となった。

また、市幹部・議会関連の個室エリアにおいては、日立金属社製漏えい同軸ケーブル(LCX)を使用した無線LANソリューションを適用。このソリューションにより、アクセスポイントを天井裏へ格納し、端末が少ないエリアを広範囲にカバーできる効率的な設置と、美観の両立を図ることができた(写真)。



平成29年5月より、新庁舎がオープンし、約500台の情報系端末が無線LANに接続されている。「ICT環境の整備により今後さまざまな業務において、組織を超えたコラボレーションが可能となりました。業務効率化や市民サービスへ大いに貢献してくれると期待しています。これからもエイチ・シー・ネットワークスの協力のもと、快適なネットワーク環境の基盤づくりを進めていきたいですね」と塩田氏は語る。

復興のシンボルとして、また市民に親しまれる庁舎として、須賀川市役所はこれからも時代に応じ発展をつづけていく。



(左3名)須賀川市役所 様
(右3名)エイチ・シー・ネットワークス株式会社

エイチ・シー・ネットワークス株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル4階
http://www.hcnet.co.jp/
CAT.NO.HCNET-040 Printed in Japan 201709

※ Account@Adapter, LOG@Adapter, HCNETおよびそのロゴは、エイチ・シー・ネットワークス株式会社の商標または登録商標です。
※ 記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
※ 記載の情報(組織名、役職名、製品価格、製品仕様、サービスの内容、お問い合わせ先、URLなど)は、取材日現在の情報です。
※ 記載の内容は、予告なしに変更する場合があります。
※ 記載の製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

